

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成30年1月12日

三田市議会議長 今北義明 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会派名	市民の会	代表者	印
		議員名	美藤 和広
派遣者氏名			
視察先	〒350-8601 埼玉県川越市元町1-3-1 川越市役所 〒198-0053 東京都青梅市駒木町1-684 青梅市立郷土博物館		
調査事項 (調査目的)	川越市：公共施設等総合管理計画について 青梅市：市立郷土博物館について		
日時	平成29年11月8日(水曜日)～平成29年11月9日(木曜日)		
視察先対応者	川越市 議会事務局議事課 関 俊一郎 主査 総合政策部社会資本マネジメント課 佐藤 利貞 課長 総合政策部社会資本マネジメント課 戸館 貴之 副課長 青梅市 議会事務局 内田 幸宗 主査 教育委員会教育部文化課 北村 和寛 課長 " 鈴木 学芸員		
添付資料	・㊟対応者名刺 ・㊟川越市公共施設等総合管理計画(概要版・詳細版) ・㊟川越市の公共施設等総合管理計画の進め方について ・青梅市郷土博物館(パンフレット) ・㊟青梅市郷土博物館施設概要 ・文化財住宅のしおり		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調 査 日 時	平成29年11月8日(水) 14時00分～16時00分
視 察 先	埼玉県川越市元町1-3-1:川越市役所
調 査 事 項	公共施設等総合管理計画について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>川越市：公共施設管理：公共施設管理計画</p> <p>川越市は、小江戸とよばれる昔の風景を残し、1960年代後半から急激な人口増加となり、合わせて公共施設建設が行われた。</p> <p>公共施設に関して、総合計画に基づき、白書作成・管理計画作成・方針作成と丁寧に進め、市民への周知を図ろうとしている。</p> <p>ニュータウン開発の三田と類似しているが、人口予想に合わせて12%面積削減を図る三田とは違い、施設ごとに市民との意見交換・調整を大事にしている。逆に、少し時間をかけすぎて、老朽化対策が間に合うのか心配なところもあるが、市民の納得いく対応を丁寧に進めるという。三田でも、ガイドラインは提示しても、最終判断には丁寧に意見交換や納得いただくなど、十分に配慮いただけるよう進めていただけるよう、訴えていきたい。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

川越市の社会資本マネジメントの取組（組織・取組内容）



年度	組織	取組内容
平成18年度	財政部管財課 財産管理担当	・第三次川越市総合計画の施策に位置づけ
平成20年度		・川越市公有地利活用計画の策定 (H21.3)
平成24年度	総務部管財課 公共施設マネジメント担当 (新設)	・川越市公共施設マネジメント検討委員会 (市内)を設置 ・川越市公共施設マネジメント白書を発行 (H25.3)
平成25年度	政策財政部 政策企画課 社会資本マネジメント担当 (新設)	・整備更新計画の検討（業務委託）
平成26年度		・川越市公共施設等総合管理計画案の検討 (東洋大学・公民連携調査研究業務委託)
平成27年度		・川越市公共施設等総合管理計画の検討 (市内)
平成28年度	総合政策部 社会資本マネジメント課 社会資本マネジメント担当 (新設)	・川越市公共施設等総合管理計画の策定 (H28.6) ・川越市公共施設マネジメント基金の設置 (H28.12)

大分県

8

各段階で求められる課題を、調査結果をもとに整理すると下表のとおりである。

図表 取組段階別の課題と推進組織

	段階	組織に求められる課題	推進組織
1	公共施設の実態把握段階 ※データの洗い出し、現状及び課題の見える化（白書作成等）	・公共施設全体のデータを各所管課から収集できるか	・財産管理系 ・企画政策系
2	マネジメントの方針策定段階 ※基本方針及び全体計画の策定	・方針を市全体の方針として位置づけられるか ・住民・議会等との協議・周知により総論への理解を得られるか	・企画政策系 ・行革系
3	実施計画の立案・実践段階 ※施設個別の実施計画策定、実践	・財政的な裏付けをもって実施できるか	・財政系
4	基本方針及び実施計画の評価・改善段階 ※効果検証・評価とそれを踏まえた改善・改革	・各所管課及び住民・議会等との利害調整ができるか	・マネジメント組織 ^{※1}

注) 所管課への調整権限を持った首長直属の体制が望ましい

川越市公共施設マネジメント白書 (平成25年3月策定)

本市HP <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/seisakushisaku/hoshinkeikaku/shiseizenpan/syakaisihon.html> 10



川越市公共施設マネジメント白書 (概要)

目的と役割

- 公共施設の全体像を統一的に整理。
- 利用状況やコスト情報などを可視化、市民への情報公開。
- 今後の公共施設のあり方を考えるための基礎資料。

対象範囲

- インフラ施設を除く、本市が所有し、管理する公共施設242施設を対象。
- 公営企業会計を採用している上下水道局が所有する公共施設や本市と川島町で組織する川越地区消防組合が所有する消防に関連する公共施設は除く。

検討体制

- 公共施設マネジメント検討委員会(委員長:副市長、委員:教育長、部長など)において検討(平成24年度に5回開催)。
- 下部に検討専門部会を設置し、若手職員13名が個別施設の分析を担当。
- 施設を所管する課に配属された財産管理主任の協力を得て情報収集。

川越市公共施設マネジメント白書




平成25年3月

川越市



インフラ長寿命化基本計画

内閣官房HP  http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infra_roukyuuka/pdf/houbun.pdf

20

インフラ長寿命化基本計画



質問 4) インフラ長寿命化基本
計画について

21

インフラ長寿命化基本計画の概要

- 個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築
- メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化
- 産学官の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成

1. 目指すべき姿

- 安全で強靱なインフラシステムの構築**
 - ▶ メンテナンス技術の基礎強化、新技術の開発・導入を通じ、厳しい地形、多様な気象条件、度重なる大規模災害等の脆弱性に対応
 - 【目標】老朽化に起因する重要インフラの重大事故ゼロ（2030年）等
- 総合的・一体的なインフラマネジメントの実現**
 - ▶ 人材の確保も含めた包括的なインフラマネジメントにより、インフラ機能を適正化・維持し、効率的に持続可能で活力ある未来を実現
 - 【目標】適切な点検・修繕等により行動計画で対象とした全ての施設の健全性を確保（2020年頃）等
- メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化**
 - ▶ 今後のインフラビジネスの柱となるメンテナンス産業で、世界のフロントランナーの地位を獲得
 - 【目標】点検・補修等のセンサー・ロボット等の世界市場の3割を獲得（2030年）

2. 基本的な考え方

- インフラ機能の確保かつ効率的な確保**
 - ▶ メンテナンスサイクルの構築や多段階の対策により、安全・安心を確保
 - ▶ 予防保全型維持管理の導入、必要性の低い施設の統廃合等によりトータルコストを縮減・平準化し、インフラ投資の持続可能性を確保
- メンテナンス産業の育成**
 - ▶ 産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導
- 多様な施策・主体との連携**
 - ▶ 防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化
 - ▶ 政府・産業界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上

3. 計画の策定内容

- インフラ長寿命化計画（行動計画）**
 - ▶ 計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・維持・発展させるための取組の方針（対象施設の現状と課題/維持管理・更新コストの見通し/必要施策に係る取組の方向性等）
- 個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）**
 - ▶ 施設のメンテナンスサイクルの実施計画（対策の優先順位の考え方/個別施設の状態等/対策内容と時期/対策費用等）

4. 必要施策の方向性

点検・診断	定期的な点検による劣化・故障の程度や原因の把握 等
修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等
更新後の整備	施設の特徴を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等
情報基盤の整備と活用	電子化への維持管理情報の取集・蓄積、手動での対策等への利活用等に、センサー、ロボット、画像検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等
新技術の開発・導入	新技術の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等
予算管理	新技術の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等
体制の構築	【国】技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 【地方公共団体等】維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 【民間企業】入札契約制度の改善 等
法令等の整備	基準類の体系的な整備 等

5. その他

- ▶ 戦略的なインフラの維持管理・更新に向けた産学官の役割の明示
- ▶ 計画のフォローアップの実施

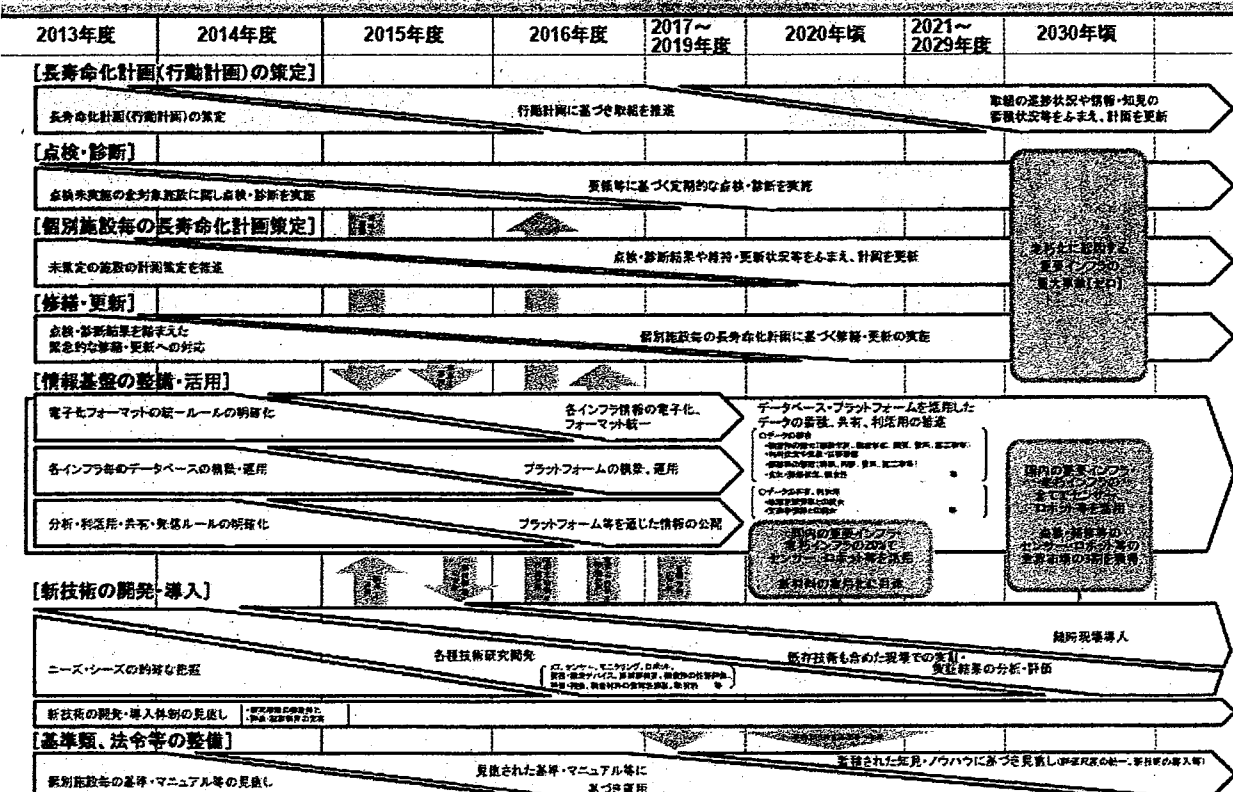
インフラ長寿命化基本計画等の体系(イメージ)



公共施設等総合管理計画の記載事項

- 1 公共施設等の現状及び将来の見通し
- 2 施設全体の管理に関する基本的な方針 *(市民と共に歩む →)*
- 3 施設類型ごとの基本方針

インフラ長寿命化基本計画(ロードマップ) ※本文より抜粋



公共施設等総合管理計画策定の取組状況 (結果の概要)

(平成29年3月31日現在)

平成29年3月31日現在

○ 平成29年3月31日現在、都道府県及び指定都市については全団体、市区町村については98.1%の団体において、公共施設等総合管理計画を策定済み。

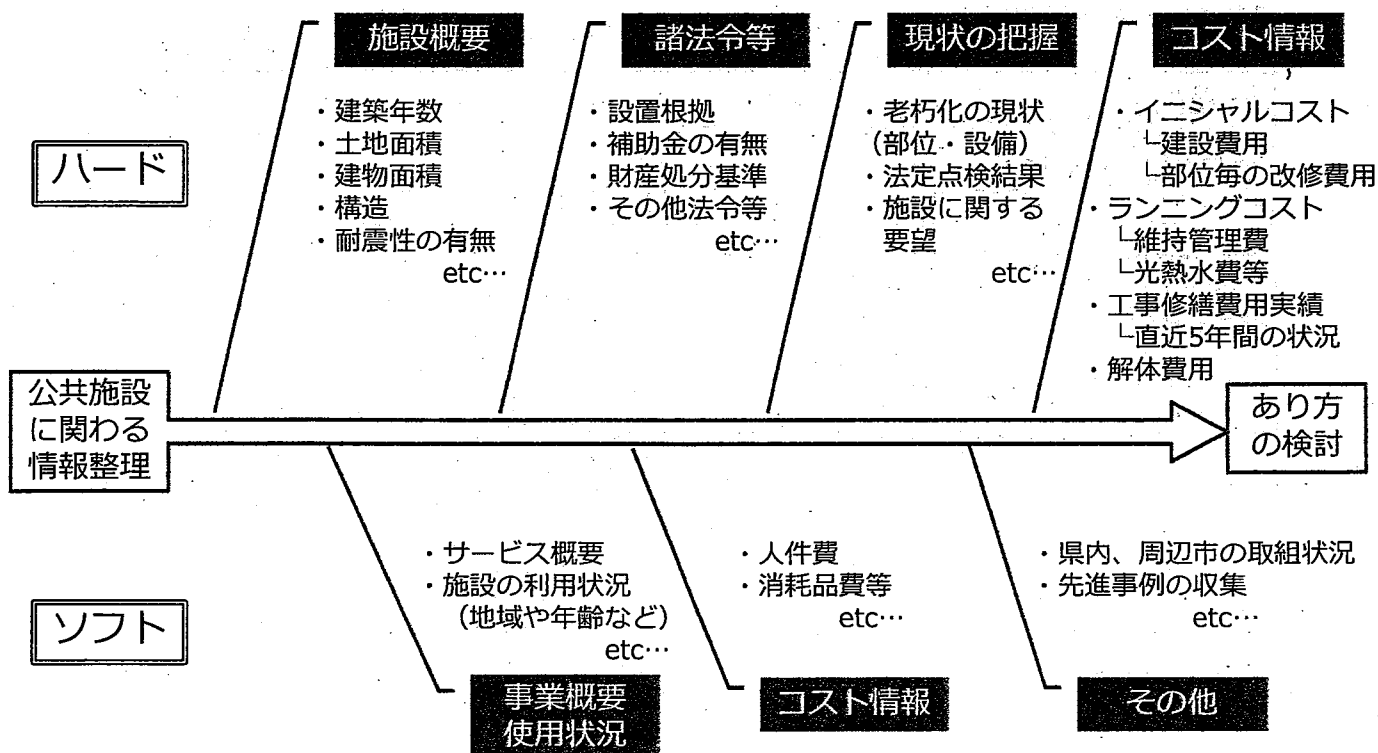
区分	実施計画		指定計画		未指定計画		【計外】計画			
	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合	団体数	割合		
全団体数	47	100.0%	20	100.0%	1,721	100.0%	1,788	100.0%		
指定計画済	47	100.0%	20	100.0%	1,721	100.0%	1,788	100.0%		
計外計画済	策定済	47	100.0%	20	100.0%	1,699	92.7%	1,756	98.2%	
	未策定	0	0.0%	0	0.0%	22	1.3%	32	1.8%	
	内訳	100年度	0	0.0%	0	0.0%	26	1.5%	26	1.6%
		101年度	0	0.0%	0	0.0%	4	0.2%	4	0.2%
		102年度以降	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
策定予定年	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

※「%」表示については、表外単位の未定を2位まで記入している関係で、合計が一致しない場合があります。

総務省HP <http://www.soumu.go.jp/iken/koushinhiyou.html>

ここまでのまとめ

情報整理のイメージ



調 査 日 時	平成29年11月9日(木) 10時00分～12時00分
視 察 先	東京都青梅市駒木町1-684 青梅市立郷土博物館
調 査 事 項	市立郷土博物館について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>東京都青梅市：文化財管理：市立博物館の運用</p> <p>青梅市の文化・歴史を残す文化財（発掘されたり保管されていた品物）を、集約・保管して博物館として管理している。隣に旧民家を移設し、中に管理人が使用しながら維持している。囲炉裏を使い続けることで、ススなど家の維持ができるという。</p> <p>三田市には、多くの文化財があり、よく、市に寄付したい旨の相談を受けるが、市の職員は、預かっても置く所が無い、と言う。市が管理する仕組みを造れば、それらの文化財を活かすことができると考える。これからの、学校統廃合により、空き教室や空き校舎が出来た時、その施設を活かすことにもなると考えられる。また、司書の活躍としても、活かせる場としても、今回の事例を参考に、仕組みを造っておけば、文化財を活かせると思う。</p> <p>三田市にも古民家の再活用はあるが、これから公共施設や学校の統廃合に併せ、管理できる仕組みを考えるモデルとなる、と考える。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

青梅市郷土博物館施設概要

項目	内 容		
設置目的	郷土の資料その他文化的、教育的資料を収集、保管および展示して、市民の利用に供し、その教養、学術および文化の向上に寄与するため		
所在地	東京都青梅市駒木町1丁目684番地		
開館時間	午前9時から午後5時まで		
休館日	月曜日（祝日の時は翌平日）および年末年始		
開館年 （建築年度）	郷土博物館 昭和49年5月11日（昭和47年度） 別棟収蔵庫 昭和63年（昭和62年度）		
構造	郷土博物館 鉄筋コンクリート造2階建て 別棟収蔵庫 鉄筋コンクリート造2階建て		
建築面積	郷土博物館 628.412平方メートル		
延床面積	郷土博物館 786.171平方メートル 別棟収蔵庫 675.120平方メートル		
総事業費	郷土博物館 90,676,000円（国庫補助金10,000,000円） 別棟収蔵庫 124,950,000円（国庫補助金23,000,000円）		
収蔵資料数	歴史、民俗、考古資料など13,327件（収蔵管理システムの登録件数）※考古資料、古文書の登録は一部のみ		
主な収蔵資料	武蔵御嶽神社所蔵 国宝 赤糸威鎧（復原模造） 重要文化財 寺改戸遺跡土壙出土品（注口土器等） 有形文化財 駒木野遺跡住居跡出土土器（2点） 有形文化財 旧多摩郡新町村名主吉野家文書3866点 有形文化財 旧宝林寺文書、小林天淵画像 有形民俗文化財 地機、青梅縞3反		
入館者数	年度	人数	主な特別展や企画展
	平成24年度	21,914人	幕末青梅、新町村開村記
	平成25年度	19,435人	青梅の木・鳥・花、青梅のスポーツ
	平成26年度	25,930人	青梅の学校教育、青梅線開通120周年
	平成27年度	23,948人	青梅の峠と坂、中世青梅の信仰と文化
	平成28年度	15,856人	映画から見る青梅の生活、青梅の食文化
その他	重要文化財 旧宮崎家住宅は昭和54年に移築		

収蔵資料閲覧・撮影依頼件数

平成24年度	15
平成25年度	15
平成26年度	22
平成27年度	6
平成28年度	16

資料寄贈件数(行政報告より)

	民具	古文書類	合計
平成24年度	136	826	962
平成25年度	162	0	162
平成26年度	145	0	145
平成27年度	229	631	860
平成28年度	160	309	469
	832	1766	2598

図書販売実績

平成24年度	589 冊	552,050 円
平成25年度	368 冊	377,550 円
平成26年度	1412 冊	2,262,000 円
平成27年度	— 冊	422,350 円
平成28年度	333 冊	412,950 円